

団体名		公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター							
事業	① 指標名	会員数及び会員就業率			目標値	会員数 1,240人 就業率 83%	実績値	会員数 1,111人 就業率 80.8%	
	過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	会員数 89.6% 就業率 97.3%	達成状況	会員数 未達成 就業率 未達成	
	(単位:人・%)	1,135・81.8	1,162・79.8	1,154・84.7					
	取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 第四期中期目標で掲げた「就業先の拡大」「会員拡大」「魅力あるセンターづくり」に向け、理事会メンバーを中心としたSC魅力化委員会や就業拡大委員会などで取組みを進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定していた事業が中止になるなど、十分な活動を行うことができなかった。 ①会員拡大 ・月一回の入会説明会を実施（4～5月は未実施） ・デザインを刷新したセンターのPRチラシ85,000枚を市内全戸配布 ・市内東部地区の住民を対象とした出張説明会を武蔵野公会堂で実施 ・関東バス車内における会員募集ポスターの掲示 ②就業率 ・就業開拓を進めるため、理事と事務局職員が市や民間事業所など11ヶ所を訪問 ・全会員へ就業情報を提供するため、就業ニュースを年24回（月2回）発行							
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ・令和2年度末の会員数は1,111人と目標値を下回り、昨年より43名減少した。就業率は80.8%で昨年より3.9ポイント減少した。 ・会員数については、平成23年の1,242人をピークに減少傾向が続いており、この10年間で100名以上が減少した。減少の主な要因は、65歳までの定年延長や70歳までの就業機会の確保、民間企業の求人状況など高齢者の雇用環境が変化してきているほか、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入会者数が伸びなかったと考えられる。 ・令和3年度については、新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況などを注視していくとともに、引き続き会員の感染対策、安全確保を図りながら、会員拡大に向けた取組みを行っていく。 ・就業率については、新規会員のフォローアップ相談会を昨年の7月から実施しており、就業率や就業定着など一定の効果が上がっていると考えられるので、引き続き取組みを進めていく。							
	二次評価	新型コロナウイルス感染症による影響もあり、会員数、就業率ともに目標に届かなかったが、民間事業所等への訪問や就業ニュースの発行、新規会員のフォローアップ相談会など、就業率を高めるための様々な取組みを実施したことを評価する。会員数の減少については、高齢者の雇用環境の変化など、新型コロナウイルス感染症以外の要因についても分析し、より効果的な会員拡大の取組みについて検討を行い実施していただきたい。							
	財務	② 指標名	事業契約額（請負・委任事業、派遣事業）			目標値	425,000千円	実績値	385,332千円
		過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	90.7%	達成状況	未達成
		(単位:千円)	383,930	407,869	411,176				
		取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 第四期中期目標で掲げた「就業先の拡大」「会員拡大」「魅力あるセンターづくり」に向け、理事会メンバーを中心に取組みを進めてきたが、新型コロナ感染拡大の影響で予定していた事業が中止になるなど、就業先や会員数の拡大につながる十分な活動を行うことができず、事業収入にも大きく影響した。主な取組みについては、上記①と同様である。						
一次評価		※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 ・事業実績としては、請負・委任事業が3億6,608万円、派遣事業が1,925万円、合計3億8,533万円となり前年度から2,584万円の減となった。請負・委任事業では2,742万円の減となった一方、派遣事業は158万円の増となった。 ・職種別では、管理群（施設管理、マンション管理）やサービス群（家事援助、ふれあい訪問収集）、技能群（植木班、リサイクル班）など多くの職群で前年実績を下回っている中、一般作業群（除草、公園清掃など）が、学校消毒の実施などで前年実績を上回った。 ・令和3年度は、引き続き会員の感染防止と安全対策を図りながら、新たな就業開拓、会員数の拡大に向けた取組みを進めていく。							
二次評価		新型コロナウイルス感染症による影響により、就業先や会員数の拡大につながる活動を十分に行うことができず、契約額は目標を下回ったが、職種別では、新たな業務により前年実績を上回った職群があったことは評価する。引き続き、会員数増加、就業率増加の取組とともに、新規事業の開拓を図るなど、事業収入の増加に向けた取組みに努めていただきたい。							
内部		③ 指標名	組織強化と人材育成			目標値	事務局体制の改善	実績値	総務部門の強化、ジョブローテーションの実施
		過去の実績	平成29年度	平成30年度	令和元年度	達成率	90.0%	達成状況	未達成
		(単位:円)	なし	なし	内部登用、昇任試験等の実施				
		取組内容	※R2年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 令和2年度は、センターの事務局体制の強化と経営の安定化を図るため次の取組みを進めた。 ①コンプライアンスの徹底と総務部門の強化（規程整備とコンプライアンス研修の実施） ②ジョブローテーションの実施 ③各業務のマニュアルの整備						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 総務部門の強化を図るため、令和2年4月に総務担当次長を新たに配置し、予算や文書など総務事務の適正管理の徹底、各種規程の整備、ジョブローテーションの実施、各業務のマニュアル作成等を実施した。年度途中で職員1名が病気休暇になるなどの影響で超過勤務の縮減目標を達成することはできなかった。今後は職員研修計画や超過勤務の縮減など積み残しの課題に向け取組みを進めていく。							
	二次評価	総務担当次長の配置等により、各種規程の整備、ジョブローテーションの実施、各業務のマニュアル作成等、総務部門強化のための取組みを進めてきたことを評価する。職員研修計画の作成や目標に達しなかった超過勤務の縮減など、引き続き取組みを進め、事務局体制の強化を図っていただきたい。							